

国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代、前期の水田遺構が出土

御所市 中西遺跡：弥生前期最大の水田跡2千枚 高い計画性と技術

大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」



金剛山・葛城山を背に御所道路の建設が進む御所市條 弥生前期の大水田跡 中西遺跡 2011. 11. 25.



大和が大穀倉地帯であったことを示す弥生前期の広大な水田跡 御所市條 中西遺跡 2011. 11. 25.

2011 年 11 月 新聞各紙に「奈良県立橿原考古学研究所は 11 月 8 日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約 2400 年前）としては国内最大の水田跡（約 2 万平方メートル）を発見した」と発表し、広大な土地に網目のように整然と区画された水田跡が並んだ航空写真が掲載され、びっくりした。水田耕作が日本に伝わって間もなく、弥生前期おそらく鉄の農耕具のない時代に 発見されているだけで、約 2 万²に及ぶ広大な土地に整然と並んだ水田跡が出土するとは・・・と。

場所はすぐ南の丘に葛城葛城襲津彦（そつひこ）の墓と言われる宮山古墳がある古代初期の大豪族 葛城氏の本拠地で、今 奈良盆地を南北に縦貫する京奈和自動車道の建設が急ピッチにすすめられ、この地は御所 IC の建設地で、

この道路沿いの発掘調査が進められ、続々と重要な古代遺跡が出土し、このすぐ北の縄文から古墳時代の複合集落遺跡の



御所市條 弥生前期の大規模水田跡 中西遺跡の位置

秋津跡からは縄文の翡翠が出土している。

自然地形に合わせて、全体を大規模に水田を造るのは弥生中期や後期と言われるが、この地ではすでに弥生前期に金剛山・葛城山の山裾を西に見晴らし、南東側を巨勢の丘陵地に隔てられた広大な平坦地形全体に水田が作られている。

凄い技術に驚くと同時に「この地が弥生時代の初期から豊饒な土地で大穀倉地帯であったのではないか」との思いが浮かぶ。

「この実りが葛城氏の實力を育んだばかりでなく、この大和盆地全体が大穀倉地帯であり、

それが鉄を持たぬ大和を鉄の北部九州に対抗する盟主にしたのではないか・・・・・」と。

長年抱いてきた大和の謎をときあかしてくれるかも……。



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡 インターネット 中西遺跡報道写真より

写真を引き伸ばしたので ちょっとピンぼけですが、作業中の人と水田とを比較すると、

広大な土地に整然と並ぶ水田跡の様子がよく判る。鉄のない時代によくもこれだけ整然と水田を開けたものである

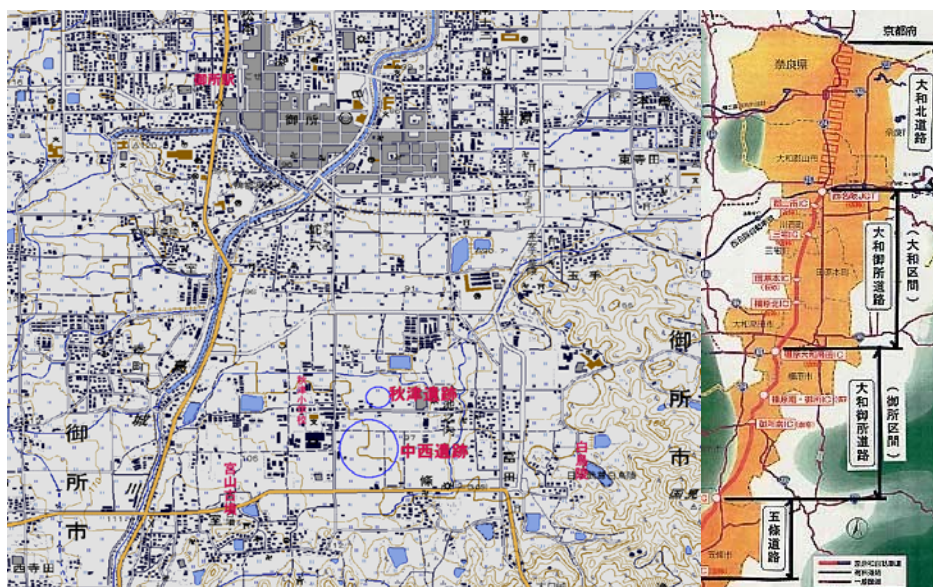
その計画性と技術ともに生産される実りの大きさに驚嘆 大穀倉地帯の出土である。

是非 見に行こう。早く行かないと道路の基盤工事に埋められてしまう。

何度も歩いたことのある JR 御所駅の東側 秋津集落の東に広がる田園地帯の中である。

平城京の鍛冶工房跡を見に行って、ちょっと遅くなりましたが、JR 御所の駅に午後3時到着。

駅で遺跡への近道を教えてもらって
急いで歩き出す。現地説明会には多くの
人が詰めかけたというが、静かなもの。
川の土手から真直ぐ南へ室の集落への
道をたどると約 30 分ほどで、秋津集落
へ入って秋津小学校の横にでる。



御所市條中西遺跡周辺図と工事が進む御所道路 中西遺跡周辺が御所 IC となる

学校の南端の所で、反対側の東へまっすぐ伸びる道を歩いたらと集落を抜け、田園地帯。
道の両側とも金網で囲まれた広い工事現場があり、現場の北奥には何本もの橋脚が見える。



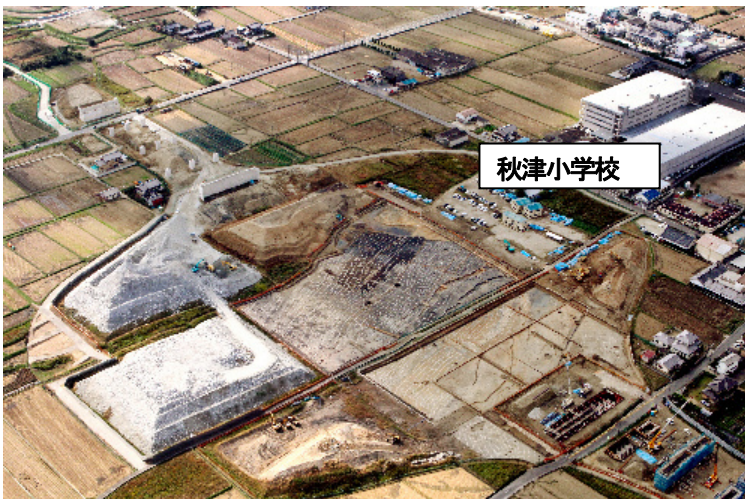
金剛・葛城の山並みを眺めながら 南の室集落へ田園地帯をまっすぐ伸びる道を途中の秋津集落へ 2011. 11. 25.



秋津集落に入り、秋津小学校の横で東に道を折れると両側一杯に道路工事現場がひろがり、そこが中西遺跡の発掘現場 2011. 11. 25.



東側へまっすぐ伸びる一本道の両側に高速道路の工事現場 中西遺跡発掘調査現場がありました 2011. 11. 25.



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡発掘現場
インターネット Asahi.com 2011 年 11 月 9 日より

中西遺跡発掘現場 google 写真
遺跡をまっすぐ高速道路が貫通し、御所 IC が出る

金網の中を覗くと平坦に削り取られた広い面一面に四角に縁どられた区画がその平面一杯に広がっている。道の両側どちらの金網もそうなっていて、幾人もの作業者がしゃがみこんでその面を欠いて作業しているのが見え、また ブルドーザーが集めた砂を端の山へ積み上げている。橋梁の工事現場と思いましたが、これが中西遺跡の発掘現場である。とにかく広い。

西側には秋津の集落越しに風の森峠に至る金剛・葛城の山並みが遠望され、東側から南へ巨勢の丘陵地がづき、その南の端に室の宮山古墳が見え、その中全体が掘り返され、そして、その土の下全体に弥生前期の水田跡が広がっている感じである。とにかくすごい。



西側から 中西遺跡 南側の区画

西側から 中西遺跡 北側の区画



中西遺跡 南側の区画

2011. 11. 25.



西側より 中西遺跡 南側の区画 バックに金剛山・葛城山が見える

2011. 11. 25.



東側から 中西遺跡 南側の区画



東側から 中西遺跡 北側の区画



南側より 中西遺跡 北側の区画 田圃一枚ごとに白線で畔が記されている 2011. 11. 25.



発掘調査現場のすぐ北側には 高速道路の橋脚が建ちならぶ
西側より 中西遺跡 北側の区画 田圃一枚ごとに白線で畔が記されている 2011. 11. 25.
奥に見える橋脚の周辺が縄文の翡翠が出土した秋津遺跡の位置である



南側の区画 きれいに一枚一枚の区画の畔が白線で描かれている

周囲一面が 弥生時代前期の水田跡である。

一枚の大きさは 3mX4m ほどで現在の田圃に比べるとはるかに小さく、それがいくつも連ねることで耕地を造成するという「小区画水田」とよばれる水田で、人力で、しかも木製農耕具に頼らねばならぬ時代に、少ない同労力で、水田に水を張るために必要な平坦面を造成するための工夫だそうである。(現地説明資料より)。

この広大な土地一面の水田をどう評価すればよいのか かんがえるのですが、お手上げ。

金網越しに発掘調査をしている橿原考古学研究所の学芸員の方に声をかけると、

「 いい時にやってきましたね。今ちょうど南北どちらの区画もほぼ同じ弥生前期の地層まで掘り下げ、一面全部弥生前期の水田跡です。弥生の前期にこれだけ計画的な水田遺構があることが、大和を考える上で極めて重要。 じっくりとみていってください。

また、この下には縄文の遺構が残っている可能性があり、それも掘り下げてゆくので楽しみ」と。

また「現地説明会の資料はもう数部しか残っていないが、すぐそばの事務所にあると思うので取ってきてあげる」と。行けなかった現地説明会の資料もいただけて本当にラッキー。

もらった現地説明会資料には この広大な中西遺跡の水田遺構の評価が下記のように記されていました。

【中西遺跡 第 18 次調査 -弥生時代前期水田の調査- 現地説明資料より まとめ整理 】



1. 今回の調査で確認した水田遺構は弥生前期(約 2400 年前)へ遡ると考えられる。
2. 遺構には大畦畔・小畦畔・水路・縞状高まりがあり、水田は高さ 5cm ほどの小畦畔で 3X4m ほどの方形区画にし、

それを幾つも連ねて耕地を造成。 今回の調査地では 850 枚に及ぶ。

3. 水田の造成法

まず、小畦畔を南西-北東方向を基本ラインとして削りだし、次いで、これに直交する小畦畔でさらに区画する。そして後者の方が前者の方より畦の高さが低くなっている。小畦畔の所々に途切れたところがあり、水口になっている。このように基本的な配水方は畔越しによる掛け流しだったといえる。

4. 調査区のほぼ中央には水路と思われる溝があり、このような水路も併用しながら配水することを意図している。

◎ 総合まとめ

今回の調査では 調査区のほぼ全生き約 10000 m²に及ぶ水田遺構を確認。

第 14・16 次調査でも弥生前期の水田遺構が確認されており、周辺調査を合計すると耕地面積は約 20000 m²以上もの広がりを持つ。ことがあきらかになった。

これはこの調査区周辺が有数の穀倉地帯であったことを示すと考えられるが、現時点では集落が確認されておらず、解明すべき課題も多く残されている。しかし、大和はのちの古代国家成立の地であり、その成立の背景のひとつに、早くから稲作中心の安定的な経済基盤を構築することができたという社会的・経済的環境が寄与した可能性が高い。



中西遺跡 北側では京奈和道路の橋脚工事がすぐ横まで迫っていました 2011. 11. 255.



中西遺跡周辺 Map



夕闇せまる御所市條 中西遺跡周辺
遺跡の奥に室の宮山古墳 その後ろに金剛山麓 風の森峠

【参考資料】 中西遺跡第 18 次調査 -弥生時代前期水田の調査- 現地説明資料 奈良県立橿原考古学研究所

<http://www.kashikoken.jp/from-site/2011/nakanishi18.pdf>

【参考 1.】 インターネット・新聞が伝えた弥生前期の大規模水田跡出土 御所市中西遺
国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代前期の水田遺構が出土

奈良・中西遺跡：弥生前期最大の水田跡 2千枚 高い計画性と技術
2011年11月9日 1時31分 インターネット 毎日 JP・Asahi.com より整理

奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約2400年前）としては国内最大の水田跡（約2万平方メートル）を発見したと発表した。

水田が河川の氾濫による土砂で埋まった後、大規模開発などが行われなかったため地中に残っていたとみられ、橿研は「当時の水田開発の仕方が非常によく分かる発見」と評価している。

発掘調査は京奈和道のインターチェンジ工事に伴い今年4月から約1万3500平方メートルで行われている。

同遺跡は緩やかな傾斜地。水田跡は約850枚あって、いずれもあぜ道で細かく区切られ、1枚あたり東西4メートル、南北3メートルほどの小さなものが多かった。

水田に水をためるためには、地面を水平にする土木工事が必要で、橿研は「1枚あたりの面積が小さいのは、土木工事の労力を抑えるためでは」とみている。今回の調査では、水田跡が約9000平方メートル見つかり、過去の調査で確認された約7000平方メートルに加え、隣接地で継続中の発掘調査でも現時点で約4000平方メートルを検出。合わせると約2万平方メートルになるという。これまで弥生時代前期の大規模な水田跡としては、服部遺跡（滋賀県守山市）が約1万8700平方メートルで最も大きく、次いで池島・福万寺遺跡（大阪府八尾市・東大阪市）の1万8000平方メートルだった。「自然地形に合わせて大規模に水田を造るのは弥生中期や後期のパターンと同じ。前期の段階から大規模な水稻農耕が行われていたことが裏付けられた」という



弥生時代前期 国内最大の水田跡
奈良県御所市の中西遺跡



弥生前期の水田跡 御所市條 中西遺跡 Asahi.com 2011年11月9日より

「自然地形に合わせて大規模に水田を造る水稻農耕が弥生前期の段階から行われていた」ことの裏付け
大和は早くから 大規模水田が広がる穀倉地帯 ???

【参考 2.】 中西遺跡の直ぐ北から縄文の翡翠 秋津遺跡

長大な堀で囲われた4世紀前半の方形区画群・その下層から縄文晩期の翡翠が出土
また、ここを本拠とする葛城氏の中核をおもわせる方形区画と独立棟持ち柱の建物の遺構が出土
この周辺には縄文時代からずっと 各地との交流路があった開けた肥沃の地

橿考研は2011年8月 御所市の秋津遺跡で確認されていた古墳時代前期（4世紀）の建物のうち8棟が、建物の外に屋根を支える柱のある「独立棟持（むなも）ち柱建物」だったと発表。

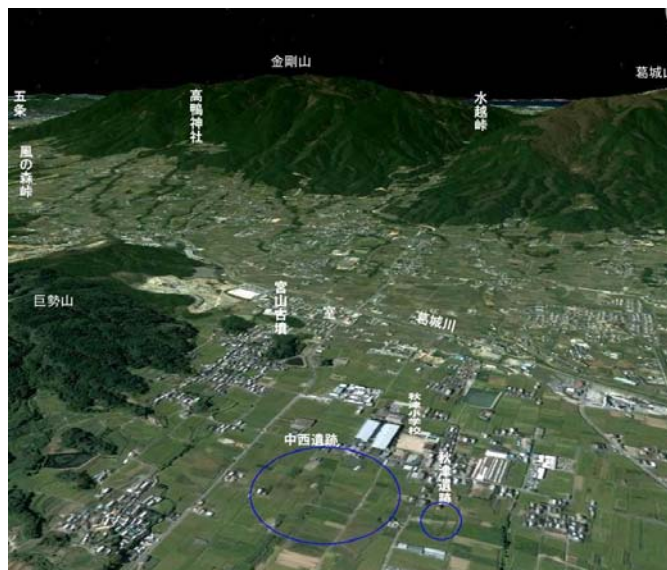
独立棟持ち柱建物は「神殿」との見方があり、8棟の場所は堀に囲まれた国内最大規模の区画施設内（最大南北50メートル、東西48メートル以上）であることから、「祭儀を執り行った特別な空間の可能性はある」としている。

橿考研によると、8棟は50～100年の間に建て替えられ、すべてが同時に存在したわけではないが、古墳時代の遺跡で8棟も独立棟持ち柱建物が確認された例はないという。

また、区画施設の南側に竪穴住居20棟が新たに見つかった。竪穴住居跡と方形区画群の間には幅2メートルの溝があり、橿考研は「居住と祭儀の空間が機能的かつ明確に分けられていた」としている。5世紀に大和政権の中核を担ったとされる古代氏族・葛城氏との関連が指摘されている。

また、古墳時代の遺構が出土した土面の下層から、縄文時代晩期後半（2800～2500年前）の首飾りの一部とみられる糸魚川産と推測される翡翠の管玉（長さ約4センチ、太さ約2センチ）が見つかった。

この地に縄文人が居て、新潟県糸魚川につながる交流路がこの地にあった論拠になるかもしれない。



中西遺跡の北側 橋脚の建つ周辺が秋津遺跡



秋津遺跡で見つかった翡翠の管玉



長大な堀で囲われた4世紀前半の方形区画群遺構が見つかった秋津遺跡



【参考資料】 秋津遺跡第5次調査 現地説明会資料 奈良県立橿原考古学研究所

http://www.kashikoken.jp/from-site/2011/akitsu5_shiryou.pdf